

# 経営部門

鹿児島県曾於郡大崎町

藤岡数雄・藤岡美江子

「低コスト化」追求で安定経営を築く子牛生産

—楽しい牛飼い人生を息子たちに—

第42回農林水産祭天皇杯（畜産部門）

平成14年度全国優良畜産経営管理技術発表会最優秀賞

（主催：社団法人中央畜産会）



藤岡さんご夫妻と二人の息子さん

藤岡数雄、美江子夫妻の経営は、子牛の生産コストを、着実な規模拡大と試験研究機関の研究成果のいち早い導入、飼養管理や飼料作などの創意工夫により低減し、舎飼い方式の省力・低コスト生産を実現している事例である。また、耕作放棄地を飼料畑として借地し自給飼料を確保することを通じて地域農業の維持に貢献しているほか、家族内協業という新しい形態で子息2人を後継者として育成している。

経営主の数雄氏は、昭和41年に地元農業高校を卒業後、大隅半島のほぼ中央部に位置する大崎町で、父親が行っていた軽種馬、甘藷、陸稲、園芸等の複合経営の後継者として就農した。昭和50年の結婚を契機に経営移譲を受け、軽種馬生産を中止、手作り畜舎で繁殖雌牛7頭による子牛生産を開始した。今日まで一貫した省力・低コスト生産をモットーに規模拡大を行い、平成13年現在、成雌牛75頭の繁殖専業経営となっている。

藤岡夫妻の省力・低コスト生産の特徴の第一は飼料費の節減である。実面積13.5ha（うち借地7.5ha）、成雌牛1頭当たり飼料生産延べ面積26.2aによる自給飼料生産を行い、ラップサイレージ調製し通年サイレージ給与体系を確立しているほか、地域で生ずる焼酎粕を無償で入手し、給与している。

第二は、省力的な飼養管理である。繁殖牛をステージ（分娩・種付・妊娠）ごとに群管理するとともに、連動スタンションによる個体管理を実施、さらに家族全員が管理・観察しやすい

ように頭絡の色別テープで個体ごとに管理している。分娩は、1日1回の給餌による昼間分娩を実施している。子牛管理は、下痢による損耗防止、早期離乳、哺乳ロボットの活用等を行っている。これらの省力的生産技術体系の確立で成雌牛1頭当たりの年平均労働時間は48時間となっている。

第三は、設備・機械投資の抑制である。牛舎10棟のうち8棟が手作りであり、機械の修理や保守点検を自らの手で実施している。これらの取り組みにより子牛生産原価16.3万円の低コスト生産を実現した。

もう一つの特徴は、後継者育成と家族内協業の実践である。平成14年はさらに規模拡大し、藤岡夫妻と長男で成雌牛84頭を飼養するほか、同じ敷地内に次男が牛舎を建設、44頭を飼養している。経営は分離し責任を負わせながら、飼養管理や飼料作は親子で機械を共同利用して作業を行うという新しい家族間の協業形態をとっている。なお、平成10年に夫婦で家族協定を締結している。将来計画等については家族全員で話し合っている。

以上の結果、藤岡夫妻の経営は、総所得1,340万円、成雌牛1頭当たり年間所得18万円、所得率58.7%、分娩間隔11.8ヵ月という素晴らしい成績をあげている。そして、経営の基本である低コスト生産の取り組みは、地域で低コスト化の指針となっているばかりか、今後の我が国の舎飼い方式による低コスト生産の道しるべとなる事例として普及の可能性が極めて高い事例である。

## 活動のすかた



### ▲開放牛舎と広い運動場

各牛舎は群飼いで開放式である。  
広い運動場を付設し、健康的な飼養管理を行っている。



### ▲整然と積み重ねたラップサイレージ

飼料作物は全てラップサイレージ調製し、通年サイレージ給与体系を確立している。



### ▲飼槽に手作業で設置した焼酎粕給与装置

県畜産試験場の試験研究成果を参考に、特産の焼酎粕を給与し、飼料費の節減に努めている。

### ▼頭絡の色別テープで個体管理

家族全員が管理・観察しやすいように、頭絡に色別テープを付けている。写真の赤色は妊娠鑑定済みの牛。



### ▼手作り牛舎とサイレージ給与

牛舎10棟のうち8棟までが間伐材等を活用した手作りである。手作業で投資を抑制し、かつ作業性を考慮した設計で建築している。

